

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物

Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!



埼玉県秩父市
が応援するふるさと名物

ちちぶの織物関連製品
応援宣言



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

平成29年3月10日

埼玉県秩父市

地域の
プロフィール



秩父市イメージキャラクター

ポテくまくん

豊かなまち、環境文化都市ちちぶ

秩父市は、埼玉県の北西部にあり、北は群馬県、西は長野県、南は東京都及び山梨県に接しています。面積は577.83km²で、埼玉県全体の約15%を占めており、市域の約87%は森林で、その面積は埼玉県の森林の約40%を占めています。

秩父市の絹の歴史は、江戸時代にはすでに始まっており、周囲を山に囲まれた土地は稲作には向かなかったため養蚕と絹織物が発達、盛んになりました。当時、秩父夜祭は「お蚕まつり」とも呼ばれ、あわせて開かれた絹市は秩父地域最大の取引が行われ、多くの銘仙関係者が訪れていました。



埼玉県秩父市

地域の
プロフィール



秩父市イメージキャラクター

ポテくまん

現在でも、昭和5年に埼玉県繊維工業試験場として建築され、平成13年に国の登録有形文化財に指定されている「ちちぶ銘仙館」では、繭から反物が出来るまでの製作工程を紹介したり、機織りや手染めなどの体験を行っています。市内には、織物関係を仕事としている業者も残っており、そのデザインや高い加工技術は現在でも色あせず、新鮮なファッションとして受け入れられています。



1

主な地域資源

◆秩父銘仙・秩父ちぢみ・秩父ほぐし捺染等

本市の主要な地域資源としては、秩父銘仙、秩父ちぢみや秩父ほぐし捺染などの織物製品が挙げられます。

平成25年12月26日に、国の伝統的工芸品に指定された秩父銘仙は、秩父地方における裏絹、平織、太織など江戸時代からの織物の技術为背景として生まれた絹織物で、明治時代後期から木製力織機の導入により大正、昭和初期と飛躍的に生産量を伸ばすことで日本繊維産業や秩父市の経済の発展を支えてきました。

秩父ちぢみは秩父で織物業が活発であった昭和29年に開発され、最大の特徴は平面の生地につけられた凸凹のある大きなシワです。開発当初の機械を使用しており、時間をかけてシワ加工をおこなっているため、他産地のちぢみ製品と比較しても、そのシワはさらに深くなっており現在では、秩父銘仙の技法である「ほぐし捺染」を使用して柄付けをしたものに加工を加える製品も生産しています。



ふるさと名物の内容

1

主な地域資源



秩父太織は秩父銘仙の前身で、養蚕農家が出荷できない繭を使って織られたものが始まりです。一つの繭に2匹お蚕が入った「玉繭」や汚れのある「くず繭」100粒ほどから1本の絹糸を「座繰り」で引き、手織りで織られたもので、節のある太い糸で織られた太織は丈夫なため評判を呼び、「鬼秩父」と呼ばれ江戸で流行しました。秩父太織は衰退し一度途絶えましたが、現在では復活し、秩父産のものにこだわり製造が続けられています。絹織物でありながら自宅で洗濯できるなどの利点があり、また使いこむほどに絹に光沢が生まれ経年変化を楽しむことができます。本市は、山に囲まれた盆地であることから稲作に向かず、昔から桑の木を育てて蚕を飼い、絹取引で生計を立てていました。現在でも、秩父銘仙の原点ともいえる玉繭から糸を引く「座繰り」や、経糸に模様を捺染して手投杼や半木の力織機で緯糸を織込む解し捺染の技法が継承され、秩父銘仙の活性化事業を官民共同で行っております。



2

ふるさと名物

◆ちちぶの織物関連製品

秩父銘仙の伝統的な技法を継承しながら、新しい分野へ積極的に進出しています。平成23年からは、秩父市は「ちちぶ銘仙館」の運営強化のために地域おこし協力隊を配置するなど、本格的な活動支援を強化しています。

また現在では、機屋は数件程になってしまいましたが、100年続く伝統技術が認められて、平成25年12月に秩父銘仙は、国の伝統的工芸品に指定されました。その結果、国の伝統的工芸品関連イベントにも積極的に参加をし、

「秩父銘仙」、「秩父ちぢみ」や「秩父太織」などの更なるブランド化や活用への取組みが強化されてきております。

「ちちぶの織物関連製品」が地域資源になることで、生産者と商業者を今まで以上に繋ぐことができ、地域一体となつての取組みが更に進むことが期待できます。



1

独自の支援策

◆秩父夜祭絹市などによる販路拡大

秩父地域が養蚕で盛んだった頃、秩父夜祭は「お蚕まつり」とも呼ばれ、年間最大の絹の取引が行われていました。その後、織物を取り巻く環境が非常に厳しくなり、夜祭での賑わいが姿を消したが、新たにプロジェクトを立ち上げ、かつて絹の取引を中心に行っていた通りを利用して「秩父夜祭絹市」を復活させ、絹産業の振興を図っています。

また国や民間企業等とも連携し、「絹の道プロジェクト」や「STYLE*ME ISEN」などの事業への積極的な参加を支援するほか、新商品開発のための地元デザイナー等との連携等を積極的に進めています。

その他、インバウンド対策や普段から気軽に着物が着れるように、秩父銘仙の着物のレンタルと着付のサービスによる「ちちぶの街あるき」事業の実現化に向けて支援をしています。



2

技術の継承

◆後継者育成事業

ちちぶ銘仙館では、後継者となる人材の発掘・育成を行う目的で染色・製織の基礎技術を習得させる講座を開催しています。これは、伝統的工芸品産業支援補助金を活用し実施されているものです。新たな取り組みとしては、若年層向けに加えて織物歴がある方を対象に、プロ向けの育成講座の開催を行っています。このことで、更なる技術向上が見込め、機械織機を使つての量産が出来る体制が構築され、産地の即戦力としての振興が図られます。



3

広報・ タイアップ

◆小学校出前授業とファッションショー開催

秩父銘仙等の魅力をPRするため、地域おこし協力隊と協力し、市内の小学生を対象に秩父銘仙の歴史や作業工程などの説明を行い、型染め体験を実施しています。型染めは、秩父銘仙の製造工程に使われる一つの技法であり、直接、子ども達に触れてもらうことで秩父を支えたかつての絹産業を知る機会を継続して提供していきます。また平成27年には、「今の秩父銘仙を多くの人に知ってほしい」との思いから、ファッションショーを開催しました。秩父にゆかりのある方にゲストモデルをしていただき、現在織られている新作の秩父銘仙が披露され、当日は約800名ものお客様が訪れました。今後も、秩父銘仙を身近に見られる機会を創出します。

